

刊夕日十二月一
常警每日新聞

定額 一部五元 二部十元 五部十五元
廣告料 五部十二字 行金五部 行金五部
日曜 祭日の日 休刊
発行所 常警毎日新聞社
印刷所 常警毎日新聞社

牢獄と蜘蛛と
こうろぎ 二

白土五郎

蜘蛛公

地獄の中にたどりついてしまった、逃げやうとする
と手足は粘りつく、この有
様を奥の方で見てゐた蜘蛛公
一直線に速つて来た、そし
て一寸ためらつてゐたが、
遠くからグル／＼と網を蟻
の近くに張つて行く。蟻は
手をとられ足をとられても
がく、その苦しむ様は地獄
の鬼に亡者が針の山を登ら
せられるよりも惨酷だ、生
きながら手足は粘りつけら
れ、もがきつゝ全身が巻き
つけられ、ただ頭のみ左右
前後に振り、口をバク／＼
やつてゐる。もうしめた
蜘蛛公は悠々と近寄り喰へつ
かんとする時、俺の手は地
藏菩薩の救への手となつて
降る、蜘蛛公は吃驚して一目
散に根據地めがけて速る、
蟻は地藏菩薩の手に救へ上
げられ蜘蛛公はとりのけられ
日まはりの葉の上に乗せら
れた。有難ふ、有難ふ、あ
やうい生命を助け下されま
して有難ふと、頭をベコ
／＼下げて悦び舞んで與へ
られた仕事をなすべく葉か
ら葉へ渡つて行く、また一

匹の蟻は蜘蛛網に落ち込んだ
蜘蛛公、今度こそはと遠くか
らグル／＼と巻いて来る、
たつた今の地藏の救への手
は悪魔の手に變つて、一匹
の蟻は蜘蛛網に投げ込まれた
クモ公、また来たかとはばり
それに飛びついて行く、前
の蟻はそのすきに逃げんと
一生懸命にあせる、流石の
クモ公、そんなことで逃が
すものかと、遠まきに二匹

【朝】味噌汁…葱 小付
【書】干物いわし…小付
【晩】パン粉 揚海老レ
モン 煮合せ八つ頭
大根

の蟻をまいて行く、ジリ
／＼と二匹はよせつけられ
手足の自由は奪はれ、断末
魔の苦闘だ、クモ公は悪魔
の笑をしながら、いでや御
馳走にあつからんとする時
彌陀の救の手は降る、クモ
公、色を失つて根據地に逃
げ歸る。二匹の蟻は手の掌
に乗せられ、クモ公はとりの
のどかれて日まの大きな
葉の上に置かれた、有難ふ
有難ふとくり返して右と左
に別かれて葉傳へにいそい
で己が巢に歸る。こうした
ことが毎日くり返された。

常警文藝

おちさん春は

「おちさん春は何時来るの」
『明神山の雪が消え
堤の柳に青い芽が
ふいて水車の廻る頃さ』
「おちさん春は
何處に居るの」
『小鳥が飛んだ空遠く
町の火の見が見へるだろ
それ、その光に待つてゐる
さ』
「おぶさん春はたれ来るの」
『向ふの里のすみれ咲く
丘を、小馬に鈴の馬車
かすみに歌姫乗つて来るよ
おちさん春は
なぜ来るの』
「お前の様な可愛い子
花のね床に歌のかげ
お伽噺の樂しさを
さかさにやつて来るものさ

店主	が	店員
を	連	れ
か	れ	る
正	シ	イ
正	シ	イ
正	シ	イ
平・田町	酒	場
ラ	ン	サ
ロ	ン	ン
電	三	五
番	二	番

井坂醫院
平町 田町
電話五九九番

舊十二月二十日ヨリ二十八日マデ
十一月十四日ヨリ二十二日マデ
舊年末特價大賣出し
產地破格大量品仕入
本年掉尾の大奉仕!!

ニコノ	八十錢	金紗小紋	七圓
全伴天地	五十五錢	金波羽織地	六圓八十錢
着尺モス	二圓五十錢	村山人島	五圓八十錢
白地手拭	四十八錢	銘仙布圍地	二圓八十錢
白新毛斯	五十錢	銘仙	二圓八十錢

◎外ニ京呉服 大特價
御二重御紋付
袴 着地

新柄シヨール陳列
白キヤラコ足袋(一足)金十錢
贈るに便利 商品券 受けて重寶な……

三井吳服店
電話 三八・二八四番

皆様の足?
「尼子タクシー」へも豆タクが入
りました
御立關から玄關へ 迅速簡便
是非御利用を

市内 三〇錢
市外 四割引

流線型セダン
大型貸切バス

宮行―直通は二丁目尼子自動車部よ
り發車いたします
平町二丁目
尼子自動車商會
電話六四〇番

耳鼻咽喉科専門
病室完備
自炊便有
山内醫院
醫學士 山内亨 吉

株式賣買
合資 三共商事
大町 電話三六〇番

吉田眼科醫院
平紺屋町 電話六八番
醫學士 吉田久雄

平自營會の

資金運用急を告ぐ

現在迄に十萬人餘を救済

▽助成金交附を申請

司法保護會として免囚保護事業に目覚ましい活躍を續け縣下最優秀の成績を以つて刮目されてゐる平自營會はさきに思想犯轉向者の保護を計り、之が收容所を平町揚土に霜月寮と名稱して分會を設立したが最近資金運用の圓滑を缺きたる爲平町役場に助成金下賜を申請した

萬六千七百七十一人を算する成績を擧げて來たが磐城銀行の閉鎖に依つて基金に多大の損害を來し加ふるに最近國家多事の折柄基本金の募集が困難に陥り逐年基本金を蠶食、殊に思想轉向者の保護事業を開拓するに及んで益々基本金運用の急を告げて來たのである

因に同會は明治四十三年九月創立以來釋放者並に刑務執行猶豫者、不起訴處分者及び必要に應じて之等家族も保護し來たり昨年三月までに既に十二

年々相當額の町の助成金を下附されたいと云ふのである、尙同會十年年度收支豫算は收入六千九百一十一圓五十五錢、支出五百八十二圓である

鯛の加工業に

江名濱が力瘤

江名濱町漁業組合總會は明廿一日同組合樓上に開かれ左記案を審議する

に依り躍進を見せた鯛粕製造業界の好成績に鑑み、今後益々食料加工品として需要の増大される傾向あるため従來同濱唯一の主要加工品たる蒲鉾製造の最今の事情を考慮した結果現在小名濱町日本食糧會社に於て實施好成绩を擧げつゝある鯛の加工、フイシユミールの機械を購入、業界の新生面

△規約變更の件△寄附金採納願受承認の件△十年年度組合經費出入追加更生の件△魚糧製造設備利用方法審議の件△其の他雜件

因に魚糧製造設備利用方法の件は最近同町漁港の改

野村字齊鉢地内石川湯本線國道通稱御齊所峠道路工事は災害復舊工事とし施行することになり本廿四日午前十一時半平町土木監督所に於て復舊ヶ所二五米の入札開札した結果平町堀江工業會社に五百五十圓で落札した

第二修身批評 平第二小學校は今日二十日の一時間目に尋二の二南備訓導の修身科研究教授を開き午後二時より右批評會を行つた

豫想を裏切つて

礦區税の大滞納

驚いた平稅務署が

目下嚴重に督促中

平稅務署の十年年度礦區税は試堀が一萬四千四百四十三圓七錢、計一萬三千四百七十七圓七錢のみで實に二萬七千餘圓の近年にない大滞納と見て居たが同署では數年來の炭礦好況に依り殆んど完納を豫想して居たのが裏切られたので目下嚴重な督促を行つて居る

市制實現の促進に

その視察を新聞關係に委嘱

各社代表昨夜歸る

平町では市制實現に關し新聞眼に映じた新興先進都市の實況を資料の一端とし促進の氣運を醸成せんとする意圖に基き日新新聞社及

び支局に是れが調査を委嘱したので
磐新 時報 新いわき
常磐の地元各社及び讀賣
東日 朝日 時事 時報

雪魔の災難から

ガソリン車協議延期

招宴に臨み、殿岡市會議長の經營に係る織物工場を視察して笠間町に至り稻荷神社三輪神官初め其他有志の歓迎を受け昨夜十時歸町した、近く報告書を作製町當局に提出の筈

高値豫想

明日の共販

平農業倉庫の共同販賣は明日一日行はれるが本日までの入札申込数は平の百五十俵、大野村三百四十八俵、飯野四十一俵、鹿島二十俵、草野十俵、計五百六十九俵と云ふ多數出廻を見せ居るが既記の如く本年度新米で目下農倉には大浦の一萬一千俵、平の一萬俵を初め郡内十七倉庫に約六萬俵近く保管され市場は品不足である結果明日の入札相場は前回の十一圓四十三錢に近い高値を豫想されて居る

勿來電話區域

郵便局の電話加入區域は本廿日より左の如く變更された
(通區域)勿來町大字窪

平町人事

回出生

- △四丁目三三友盛氏長男 盛男さん
- △五丁目十二三森芳重氏長女 貞江さん
- △仲間町八一當時東京市向島區吾嬬町西七丁目三三 阿部精一氏二女恒子さん
- △五丁目一三當時東京市荒川區日暮里町六丁目五九 〇酒井豊氏長男豊彦さん
- △五丁目一三當時東京市荒川區日暮里町六丁目五九 〇酒井豊氏長男豊彦さん
- △五丁目一三當時東京市荒川區日暮里町六丁目五九 〇酒井豊氏長男豊彦さん
- △五丁目一三當時東京市荒川區日暮里町六丁目五九 〇酒井豊氏長男豊彦さん

結婚

- △五丁目一三當時東京市荒川區日暮里町六丁目五九 〇酒井豊氏長男豊彦さん
- △五丁目一三當時東京市荒川區日暮里町六丁目五九 〇酒井豊氏長男豊彦さん
- △五丁目一三當時東京市荒川區日暮里町六丁目五九 〇酒井豊氏長男豊彦さん
- △五丁目一三當時東京市荒川區日暮里町六丁目五九 〇酒井豊氏長男豊彦さん

田 御前崎 稻荷塚(特別區域)川部村字迎坂
同仲畑 前田 酒井作
北ノ作 菊又田 ナベ坂
田島ノ内 後田 後田ノ内
梅里 橋本 前ノ内
寺前 澤上 芝原 坂下

第三算術研究 平第二小學校は本日尋常一年四組の算術科研究教授を行ひ午後から批評會を開いた



玉屋洋品店
平町田町通電話五六六番

耳鼻咽喉科専門
鈴木醫院
醫學士 鈴木 正男
平町田町 (電話五八番)
藤田女學校前
自炊のお需めに應ず
入院の便あり

研究も中止

農事分場が困窮

年々豫算を減額されて

神谷村農事試験場石城分場は濱通りに於ける蔬菜園藝の指導研究機関として設立され大正十四、五年頃は一萬二、三千圓の豫算を計上されて充分の活躍をなし地方的に相當貢獻するところあつたが縣當局の無理解から豫算は年々減じられ十年度の如き僅か人件費を除いて四千四百圓しか無かつたため遂に活動は半減され冬期間のメロン栽培の如きは沙汰止みとなりその他研究事業も中止の状態におかれるに至つたので技術員連中は弱りきつてゐる

石炭殻の

毒流に反對

草野が陳情

磐炭平發電所では豫てより神谷村宇矢田目地内に石炭殻の捨場を設置する計畫で同部落民と交渉中の處三十ヶ年の契約が成立したので近く平發電所と矢田目間に鐵索を設ける事になつた處矢田目の下流にある草野村一帯の農家では炭殻の毒が灌溉用水と共に下流に流れ草野村の稲作に被害を及ぼすとして全村反對の氣勢を擧げ今日明日中に村代表者が出縣陳情する模様である

他人の自轉車

再三入質

遊廓で遊ぶ

赤井村大字赤井居住品川白煉瓦工場煉瓦職工草野茂美(二七)は昨年三月廿五日同工場主任富長十郎氏より同村小野幾彌名儀の自轉車(價格三十圓)を預り之を再三入質し平町鎌田遊廓で遊興した事發覺横領罪で告訴された

精神病の

夫を捨て

女房が逃走

茨城縣多賀郡松原町安良川二五農博の妻本郡山田村生松本まき(三〇)は去る六日午後十時頃夫が精神病者で暴行して困るからと自殺するむね遺書を殘して家出、博は幼兒四人と共に慘憺の生活にあるから捜して欲しいと親戚の松本幾太郎さんから平署へ

治療器を

持つて何處へ

東京市豊島區堀之内町一〇野一色電氣治療所主今島博愛(五二)は豫て不眠症神經衰弱に患つてゐたが舊臘卅一日午後五時頃突然電氣治療器を携帯し病家に行く

と外出したまふ不明となり平地方に立廻つた形跡ありますと願ひ出た

江名の義士會

濱町赤穂義士會は十八日午後六時より同町小學校に於て柔劍道大會を催した

寒稽古の納會

平第三小學校は明廿一日寒稽古納會を開き出席兒童全部に甘酒を振舞つて期間中の皆勤者に賞状を授與すると

嫁き先を捜索

東京市本郷區田町六澄川きく方無職内村よう(七)さんは昭和八年五月廿六日長女まつの嫁き先に行くとき家を出たとき當時平町驛前より音信ありしのみにてその後何れに暮らすものやら不明にて何分老齡でもある故長女のまつは平地方に居る筈です故捜して欲しいと澄川から願ひ出た

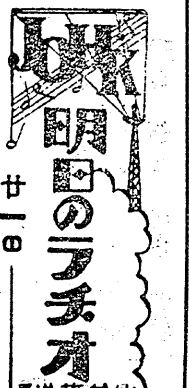
家出した若妻

好問

村大字北好問字權木平七號柳原勇助内縁の妻寺門チヨ(三三)は舊臘十九日午前七時半頃無断家出したまふ行方不明となり捜査中の處家出當時友人の同村上好問字馬場前大友ミヤと共に東京方面に行つた事判明したが何れの地に居るか判らず捜査方願ひ出た

出稼の留守

岩瀬郡須賀川町字諏訪町丹野方石川マツ子内縁の夫山形縣生



明日のラジオ

今夜は晴明日も同様

今晩の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- 少年音楽講座「音楽とは?」伊庭孝
- 後六、二五 基礎英語講座
- 岡倉由三郎
- 後七、三〇 新年歌御會始
- 御模様 千葉胤明他
- 後八、〇〇 義太夫「義經千本櫻(餅屋の段)」浄るり竹本旭嬢
- 後八、三五 筆曲「神遊」山室千代子 三枝福田富貴代
- 後八、五五 映畫劇「あなたと呼べば」杉狂児 星玲子他
- 後九、三〇 時報 放送局ニュース
- 明日の部
- 前七、〇一 基礎ドイツ語

一戸から十名宛

出動道路を改修

十人宛出役して居る

特種の解釋に

安住地の開拓に部落民が協力、一戸平均十人の義務人夫に出役して町道擴張工事に従事してゐる朗らかなニュース——江名町大字下神白國道地先より上神白部落に至る町道は従來道路面の破損甚だしく通學兒童の登校に危険を伴ひ加ふるに部落民にも不便多かつたが舊臘廿三日延長約四千米、副員四米の擴張並に改修工事を工費六千圓の町管で着工現在までに既に全工事の二分の一(約二千米)の進捗を見て豫定の三月末以前に竣工を告げる模様となつた之が工事のため上下神白の兩部落民は冬期農閑期を利用して義務人夫として一戸より

- 講座 武内大造
- 前七、三〇 朝の修養「鳩翁道話」乙竹岩造
- 前九、〇〇 衛生メモ
- 前九、〇〇 幼兒の時間 唱歌「ゲルマサン」武岡鶴代
- 前一〇、三〇 家庭講座 「貴金屬製品の常識」齋藤信治
- 後〇、〇五 歌謡曲 林伊佐緒 奥田英子
- 後二、〇〇 小學尋三の時 間 唱歌 熊代豊子
- 後二、四〇 小學高一の時 間 地理お話「北米の五大湖」大平頼母
- 後五、三〇 スキー講座

平裁判たより

- △住居不定無職宮城縣互利郡弓上町字新町生れ前科二犯菅井民治(三三)が舊臘廿四日小名濱町下明神町新米に忍入り萬年筆其他在中のバスケットを窃取したが同町カフェー浮世外數軒のゴック場より酒、飯等手當り次第に食ひ荒した事件は十八日公判開廷清田檢事より懲役二年を求刑されたが今二十日同二年の判決言渡しがあつた

平職業紹介所報告

- △女中 四十才迄 月給六圓
- △女中 卅才迄 月給五圓
- △トラック運轉手 卅才迄 月給四十圓
- △柏人夫 卅才迄 月給十圓内外

看護婦急派

求めに應じます

- △配達 十七才迄 月給四圓
- △飲食店雜役 廿才迄 月給五圓
- △精米店員 廿才迄 月給六圓
- △表具見習 廿才迄 年給五十圓前後
- △洗張見習 十八才迄 小遣仕着
- △職を求める方
- △集金人 四十六才 高卒

看護婦急派

求めに應じます

平町南町 平看護婦會 電話三〇七



繞る瓦解の謎

(著上原) 悟道軒圓玉(作) 尾至陽(書)

二八 黙つて借用

長六は自分の舟に乗りうつり龍神丸とはなれたが

長「天氣はよくなつたがふところ淋しいと何となく陰氣になるナ、お花姐さんから貰つた三兩すつてしまつた、しかしこゝに二兩と三兩と資本が出来れば取られた金を取り返して又儲けることもあらう、これは姐さんのところへ行つて資本を借りることにしよう」

と長六は舟を新大橋を左に見て中洲前にした濱町川岸のお花の住居の川岸につけて、そこから上り表へまはつて

長「今晚はもし姐さん、もうお詣りから歸りましたかえ、長六でございますよもし姐さん」

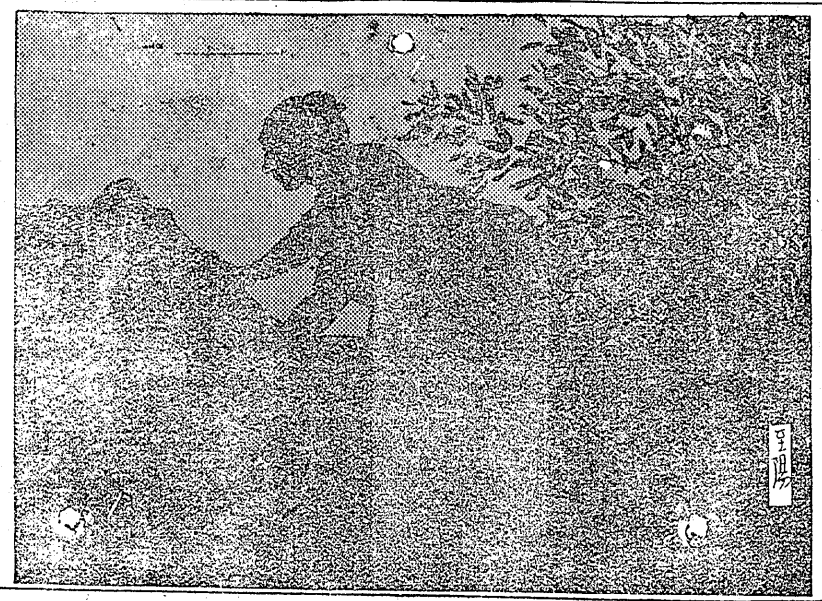
と呼んだが應へがない、そこで裏へまはり水口に立ち止まつて二三度呼んだがこれまた何の應もない

長「まだ歸らねえかな、して見れば不在だな、こゝまで来て空手で歸るも智慧がねえ、といつてこの河岸で歸りを待つてゐることも出来ねえ、中へ入つて待つてゐよう」

そこは馬鹿とて無断に

人の住居に入つてはよくないなどといふことは考へない、扉を乗り越えて庭に入つたが雨戸には嚴重に締りがしてある、そこで便所の前にある槇の木を足場にし

れは有難い、こゝから入らうと引窓の綱を押へスル／＼と迂りおると足が竈にふれた
長「しめた、天の助けるところだな、有難い／＼」
と臺所と茶の間の入り口に立て、ある杉戸を開いて入つたが眞つ暗、さぐり足をしてまたその次の間に來ると隅の方に行燈がある、その光であたりを見るとこゝは六疊、床が延てあつて白麻の蚊帳がかゝつてある長「ウム、こゝは姐さんの寝るところだな、オヤ／＼



て家根に上り臺所の引窓のところまで来た、船乗のこゝとて水の上を行くは平地を行くやうであるが、屋根の上では足許が亂れて危険を感じ、這つてゐたが引窓へ手をかけてグイと力を入れるとさらりと開いた、こ

この蚊帳の中にある布團は木綿ではねえぜ、奇麗な模様だな、縮緬か羽二重だらうな、この枕は黒塗で房がついてゐる、贅澤だな、とこゝでと、ねえさんの歸るのを待つにしたところ何時歸つてくるかそれは判ら

ねえ、困つたな、ではかうしやう、黙つて金を借りて行かう、その金を持つて龍神丸へ引つ返して宜いところを二三番受ければ利益がわりに反物の一反もつけて返すことも出来る、それが宜いや、然し何處に金があるか判らねえナ、ウムこの戸棚の中を見てやれ」
さらりと戸棚をあけると箆筒が二掉に用箆筒がありそれとならんで姫路革の文庫がある、それを引き出して錠前を捻切り蓋を拂つて見ると革の袋がある、それに手をかけたが大分重い、口を開いてさぐると中は金チャリ／＼／＼と音がする

長「めめた、大分金があるな、これだけ借りて行けば賭ち資本にさしつかへるやうなことはねえ、ねえさんいくらあらうかこの袋の中に金の高は判りませんが借りて行きますよ」

とふところへ捻ぢ込み

長「有難い、これで資本も出来たが、安心したためにかつかりした、待てよ酒はねえかな、一口やつて勇氣をつけて行かう」

と行燈をさげて臺所に來て鼠不入から取り出した徳利二本

長「高天ヶ原に神止まります」

といひながら徳利を振るとコト／＼と音がする

長「しめた、酒を買つて置いたな、これを飲んでやれ」

とそれと行燈を提げて座敷に戻つて來てこの酒を飲んでだが酔ひがまはつて快い心地になつた。

宗正らひた

美味！
芳醇！

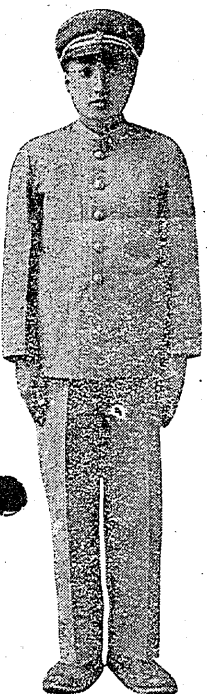
山崎合名會社
電話一〇番

夜間
胃腸病科
内科
花柳病科
性病科
皮膚科
門專
院醫性病胃腸村松
(番七〇一町南町平)

石炭
コークス
豆炭
阿部石炭店
電話三十七番

和漆器家具は和久井屋
平町五丁目
電話五〇五番

冬の通學服賣出し



中學生用 六号 四四〇〇
國防色 七号 四四二〇
黒小倉服 八六号 三三〇〇ヨリ
特A六号 三三〇〇ヨリ
別注文 國防色 五五〇均
特A黒小倉 六二〇均

三平店服洋やかあ